



「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽に寄ってください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3984-1003）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

水痘ワクチン定期接種による影響 ～水痘および带状疱疹の疫学的動向～

2014年10月、小児への水痘ワクチンの定期接種が開始された。施行前に予測されたことは、1) 小児水痘の減少、2) 小児带状疱疹 (herpes zoster: HZ) の増加、3) 高齢者HZの増加、の3点であった。開始後5年が過ぎ実際どのような影響が出ているのか、当院の外来患者統計から検討してみた。当院が位置するのは北東北の人口20万の港町の住宅街であり、近くに小・中・高校が揃っていて患者の年齢層に極端な偏移はない。

目的：水痘ワクチンの定期接種開始前後で、小児水痘、小児HZおよび高齢者HZの患者数の変化の有無を確認し解析を行う。

対象：2011～2018年までの当院の受診患者

方法：小児は水痘・HZともに15歳以下で、高齢者HZは60歳以上で区切り、それぞれ接種開始前(2011～2013年)と開始後(2014～2018年)の2群に分けて比較をX2検定で行い、 $p < 0.05$ を有意とした。

結果：定期接種開始前後で比較すると、小児水痘の患者数は有意に減少($p < 0.02$)し(表1)、一方小児HZは有意に増加($p < 0.05$)していた(表2)。また高齢者HZも有意に増加($p < 0.05$)していた(表3)。

考察：一診療所の統計であり母集団数が絶対的に少ないが、接種開始前の予測通りであった。日常の診療でも水痘ワクチン定期接種開始後から子供の水痘が減り、HZは子供も高齢者も増えたよ

表1 小児(15歳以下)水痘患者数

年 年齢	2011～2013	2014～2018	計
15歳以下	108	51	159
16歳以上	7	11	18
計	115	62	177

表2 小児(15歳以下)带状疱疹患者数

年 年齢	2011～2013	2014～2018	計
15歳以下	132	274	406
16歳以上	642	1,734	2,376
計	774	2,008	2,782

表3 高齢者(60歳以上)带状疱疹患者数

年 年齢	2011～2013	2014～2018	計
59歳以下	344	982	1,326
60歳以上	430	1,026	1,456
計	774	2,008	2,782

うな印象があったが、今回の疫学調査で統計学的に有意であることが確認された。とくに高齢者HZ患者の増加は、高齢化社会の到来に伴う影響はもちろんだが、小児水痘患者の減少に伴う水痘―带状疱疹ウイルス (varicella-zoster virus: VZV) への暴露機会の減少も少なからず影響を与えている可能性も考えられた。

石川博康

(八戸市・湊高台皮膚科)